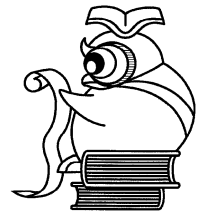


ぱびるす

聖学院大学総合図書館報

第46号 (2008年春)

祝卒業・
新生歓迎号



すばらしき図書館

寺田 正義

2007年の夏に、イギリスの3つの大きな図書館を訪問する機会に恵まれた。オックスフォード大学のボドリアン図書館、大英図書館、ナショナルアーカイヴである。ケンブリッジのユニバーシティライブラリーにも行きたかったのだが、現地まで足を運びながら、惜しくも時間が間にあわず、しかも、再度訪れる機会が持てずに帰国することになってしまった。

これらの図書館は言うまでもなく世界を代表する図書館であり、数百万冊という蔵書の中には、国宝級の書物もたくさんある。入館も厳重で、IDカードを手に入れるには証明書類を十分に整えておかなければならない。わたしの場合は幸いにも、日本を出る前に同僚の先生たちが細かなアドバイスをしてくださったので、意外なくらい簡単に入館できた。それぞれ短時日の経験だったが、次のようなことが印象に残った。

- 1) 全部閉架式である。これは、日本の国会図書館も同じである。パソコンで検索し、注文書を書き、そして、約1時間待たないと本が出てこない。そのかわり徹底していて、外部施設に所蔵してある本も車で取りに行ってくれるのである。わたしは、印刷術のない時代の古文書を注文した。待っていると、大きな巻き物が貸し出し口に現われた。数十キロもあるもので、キャスターで閲覧台に持って行き、ひもを解いて文書を読んだ。
- 2) 親切な図書館員。やや込み入った注文を辛抱強く聞いてくれて、わたしが納得するまで、何冊もの目録を調べてくれた。
- 3) 厳しい出入館チェック。透明な袋に必要な筆記具、パソコンなどを入れて、それを出入りの際にチェックしてもらう。鉛筆、シャープペンシルはよいが、ボールペン、万年筆は持って入れない。貴重な本に、消すことのできない文字を書き込まれては困るというわけである。不要な持ち物は入室前に、ロッカーに預ける。これは無料であった。
- 4) 館外貸し出し禁止。貴重本が多いこともあつ

て館内だけで調べものをしてしなければならない。

- 5) 食堂完備。たいていの人是一日中、図書館にいたことになるし、本が出てくるまでの待ち時間を過ごすためにも飲食の場所が必要だ。そのために、街のレストラン並みの店が用意されている。ボドリアンは大学付属図書館なので館内食堂はないようである。

ところで、我が聖学院の図書館はどうか。

- 1) 全部開架式。本を手にとってみるができる。本の並木道を散歩してみよう。すると「わたしを読んで！」という声が聞こえてくるかもしれない。それはきみの未来を形づくる呼び掛けかもしれないのだ。「あの本に出会ったお陰で今の自分がある」という感想を未来のきみから聞きたい。
- 2) 親切この上ない図書館員。相談に笑顔で応じてくれる図書館員。パソコンの検索に慣れていない人にも分かりやすく教えてくれる。
- 3) IDカードで自由に入出入り。持ち物検査も厳しくない。閲覧室では鉛筆、シャープペンシルだけを出しておくという習慣にするとよいかもしれない。
- 4) 本は借り出せるだけでなく、所蔵されていない本を買ってもらうことができる。
- 5) 大学図書館なので食堂は将来も造られることはないだろうが、これは、わたしの勝手な夢であるが、図書館2階西側に張り出す形で喫茶室を造ることはできないだろうか。
- 6) さらに加えるなら、年間の「借り出し王」を表彰するとか、読書感想文コンクールや創作コンクールがあつて、「聖学院文芸賞」などが創設されたら面白いだろう。未来を拓く「すばらしき図書館」がきみの目の前にあることに気付いてほしい。じゃあ、図書館で会おう！

(欧米文化学科 教授)

ライブラリー・アシスタント募集!!

勤務時間：平日 9時～18時30分 (3交代制)
業務内容：ノートPC 貸出・メンテナンスなど
資格：「コンピューター基礎A」修了者
申込み締め切り 2008年 4月 7日(月)17時

小説の愉しみ

川添 美央子

大学に専任教員として勤めはじめてから、小説を読む時間がめっきり減ってしまい、今では年に2-3冊読めれば良いほうである。それしか読んでいないのか、いや小説なぞ読んでいる場合か、など様々なお叱りが飛んで来そうだが、今後もこの程度のペースは最低限維持してゆきたい。そう思うのにはいくつか理由がある。

一つは、私が今まで人生の中で影響を受け、また研究者として尊敬してきた先生方が、みな一様によく小説を読まれる方々だったことである。ドストエフスキーの奥深さは、信仰上の父とも呼べる牧師先生に教えられた。敬愛する中世哲学の先生も古今東西の文学に通じておられた。面白かったのは、西洋中世史の先生の研究室を訪ねた時のことだ。先生は書店への電話注文の最中だったが、専門の研究書と古典的な文学作品が幾つか続いたあと、その注文リストはシャーロック・ホームズと松本清張とドリトル先生で締め括られた。その後ひとしきり、小説の愉しさを嬉しそうに語っていらしたのを思い出す。いずれにせよ、これらの先生方の説教や研究の厚みの背後に、小説の多読を通じて培われた人間理解があると、私は常々感じてきた。

しかし、時折小説に手が伸びるもっと根本的な理由は、どこかでバランスを取りたいという本能が働くからだと思う。言うなれば、自分の中の「鳥の眼」と「虫の眼」のバランスである。私の専門である政治学や政治思想史の文献を読んでいるとどうしても、自分が鳥になって社会を見渡しているような錯覚を覚えてしまう。つまり一段高い所から、社会構造の見取り図やら歴史の動きやらを見下ろしている気がするのである。勿論、鳥だから見えるものもあるが、鳥でいる限り見えないものもある。そこで、一冊小説を手にとり、頁をめくる。すると作者の筆に誘われて、私は小さな虫のように、社会の暗部やひそやかな家庭生活、ひいては人の心の闇に至るまで、あらゆる場所へもぐり込むことができる。そしてそこで起きる出来事を固唾を飲んで見つめたあと、再び鳥になって上空に戻ったとき……新たに見渡した社会の光景は、そこに生きる人々の感情に彩られ、多声的な響きをも伴って目に飛び込んでくるのである。

(コミュニティ政策学科 准教授)

生きる道標

—図書館に育てられて—

107MW008 林 文子

「世界」*という雑誌に「貸出冊数日本一」の紹介がされていた滋賀県能登川町立図書館を見学した。水車が回り、小川が流れ、四季折々の花や木々が楽しめるような広く美しい庭園に面して入口がある。入館するとどの窓からも日々変化する自然を「生きた絵画」として楽しめるようになっており、毎日でも通いたくなる図書館であった。

思えばそのときの、心地よい懐かしい温もりは私の通っていた小学校の図書室にそっくりであった。教室を出て渡り廊下を通り抜けると図書室がある。小さな中庭に面した畳と縁側つきの図書室は、いつも陽光が差し込み、この上なく温かく静かな場所であった。初めて手にした絵本『あまのはごろも』の絵の美しさに魅せられ、図書室通いが始まった。田舎の小学校ではあったが運のいいことに、いつも新着図書を手にすることができた。どの子ども達も野山を駆け回るのに忙しかった時代、小さな図書室は私の憩いの場となっていた。昔話、童話、神話、少年少女文学全集、伝記など次々に届けられる新しい図書を楽しんだ。4年生になったころ、キリストとブッタに出会い、そこで私は秘かな夢を持った。「天使になりたい」——私はここで人間としての生き方を学んだと思っている。

19歳、「自分の存在」に苦悩した日々、友人に相談しても問題は解決しなかった。石川達三の作品『泥にまみれて』『幸福の限界』に出会ったことで自分の存在を許し、自分を受容することができるようになった。——やがて愛が私のテーマになっていく。

そして現在、「人間愛」を教育理念とする学校の中学生の前で、ブックトークをしながら授業を行っている。生徒たちが“人生における友となり生きる道標ともなる良き図書との出会い”を願って單元ごとの図書館利用を心がけている。生徒に良書が紹介できる環境にいること、および豊かな自然に囲まれた聖学院大学総合図書館にて情報収集に追われることに感謝し、新たな活路を見出している。

*雑誌「世界」2005年8月号
(人間福祉学研究所 1年/中学・高校国語科教員)

図書館と私の大学生活

104W073 関本 貴志

私が本学の図書館を利用するきっかけは、レポートの作成にありました。入学当初は関心を持った科目を手当たり次第受講し、意欲的に取り組みましたが、レポートに取り組む際に講義で使うテキストやレジュメではどうしても補えない内容にぶつかってばかりでした。そのときに利用したのが図書館で、講義やレポート課題であがった用語や内容を、用語辞典や入門書などから調べる為に活用しました。

図書館を利用し本を読んで調べることを始めてから、身についたことが3つあります。1つ目は物事を調べる癖がついたことです。講義の内容や気になった単語まで、自分の足と眼を使って探す姿勢が自然になったと思います。2つ目は勉強場所として、集中して勉強に取り組める空間を得たことです。パソコンを持っていない私には、レポート作成になおさら図書館が欠かせないことが要因でもありました。3つ目は調べるために本を読むことで、文体のレパートリーや文章の構成といった「文章力」が鍛えられたことです。本を読むことで文章の表現の幅が広がり、講義で毎回出る小レポートや中間・期末レポートが億劫にならず、逆に得意分野になりました。これからレポートを初めて経験される新入生の皆様やレポートが苦手という方には、様々な本が揃っている本学の図書館を利用できる今を財産と思って頂きたいです。

大学3年の頃に「コピペ (Copy&Paste)」という単語を知りました。インターネット上の文章などをコピーし別のファイルに貼り付けることだそう。近頃はこれでレポートや論文を作成する学生が多いそうですが、私はこれが嫌いです。何故なら私は本を読み、調べて自分の考えを纏めるといった過程が楽しいと感じているからです。コピペなら自宅のパソコンから調べたい単語を検索して、短時間で様になる文章が作れるでしょう。でもそれは味気ないと思いませんか。私は地道ながら自分で調べたことを自分の言葉で表現する過程から生まれた「味」が好きです。私の大学生活を味のある有意義なものにしてくれたのがこの図書館と思っています。

4年間の大学生活を美味しくするために、本文を読む皆様には是非図書館を利用することをお勧めしたいと思います。(人間福祉学科 4年)

図書館は未知と自由に遭遇できる場所

106P014 岩瀬 僚

キャンパスの中で私にとって一番のお気に入り場所は図書館だ。図書館は私の大学生活にとって欠かせないものとなっている。それはもちろんレポート作業、課題、試験勉強のために活用する場所だからという理由もあるが、それ以上に大きいのは図書館が未知と自由に遭遇できる場所だからである。

たとえば、図書館は宝の眠る洞窟だ。騒々しい外の世界から隔離された場所で、その静けさに心地よさを感じると同時に、ちょっとした高揚感を覚える。一体どんなお宝が眠っているのか、ワクワクドキドキするのである。探し求めていたお宝を見つけたり、ひよんなことで思いがけないお宝を見つけたりする喜びは、なかなかのものである。ここでいうお宝とはもちろん本のことである。待てよ、本がお宝？図書館がワクワクドキドキ？冗談はよしてくれ、と思う人もいるだろう。

学生が本を読まなくなったと言われて久しい。それはとてももったいないことだと私は思う。確かに本を読むのは面倒だったり、つまらなかったりするかもしれない。本を読むことより他にたくさん楽しいことがある現在では、その気持ちもわかる。または、本は高等な人、頭の良い人が読むものと思われているのではなかろうか。しかし、本はつまらないもの、頭の良い人が読むものと決め込んでしまうのは、あまりに短絡的だと思う。

せっかく未知と自由に遭遇できるチャンスを、自ら断ってしまうのはもったいない。本を読むことは自分を癒し、知識を増やし、認識を深めることにつながる。要は、未知に遭遇し、自分の狭い視野を広げるのである。それはより自由になっていくための手段だと言える。そこでは自分の無知が明らかになる。人間とは多くの部分で無知なので、無知を恥じることはない。自分が無知であるということに気づければ大いなる進歩だと思う。自分が生きていた、知っていた範囲はあまりに小さかったと思うことになるだろう。

新入生のみなさんには図書館をおおいに活用してほしい。本を読まなくても、書庫の片隅の静けさに触れてみてはどうか。その静けさがあなたを優しく癒してくれるだろう。

(政治経済学科 2年)

図書館のHP を使いこなそう！



図書館 HP には検索のための入口や図書館を活用するための情報がたくさん。いろいろ触れて、上手に使う！



おすすめ① データベース一覧

TOP ページ (図1) の「データベース INDEX はこちら」をクリックするとデータベース (図2) への入口が表示されます。ここでは図書雑誌情報はもちろん、書店情報や、法律・判例を探す、統計情報を手に入れるなどと、用途別にいろいろ紹介しているので、便利です。

各データベース名の横の **i** をクリックすると内容の紹介が見られます。

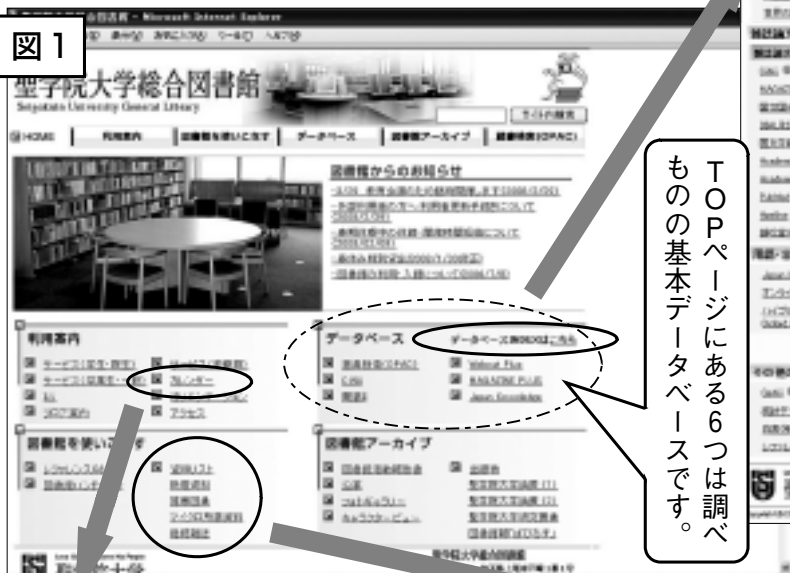


図2



おすすめ② カレンダー

図書館の開・閉館情報が半年先までわかります。(図3)



図3



おすすめ③ 資料リスト

新着資料や推薦図書、購読雑誌 (図書館が現在購入している雑誌)、マイクロ所蔵資料などいろいろなリストが用意されています。図書館にはどんな雑誌があるか、どんな資料が新しく入ったのかなどが見られます。新着資料は毎月更新します。



まだまだ紹介してない機能も…。他に、「こんな情報を載せて欲しい」「こんな機能があったらいいな」など希望があったら、図書館カウンターまでお知らせください。

大学図書館って どんなところ??

～4階編～

大学図書館ってなんだか難しい本ばかりで、楽しそうな小説や雑誌なんておいてあるの? 大学図書館って、ただパソコンが置いてあるだけじゃないの??なんて思っている方、いませんか?

「大学図書館ってどんなところ?」では、そんなあなたに、聖学院大学総合図書館の魅力をご紹介します。コレを読めば、図書館に対する意識が変わる!?かも。第1回は4階フロアをご紹介します。

4階に上がるとまず目に付くのが、ガラス張りの明るい部屋、『グループ閲覧室』です。「図書館って静かにしなきゃいけないから、友達と話せなくてつままない!」そんなあなたのご要望にお応えするのがこのグループ閲覧室です。

ここでは、友達と討論をしながらレポートを作成したり、ゼミのプレゼン練習をすることができます。4階には児童書、絵本がありますので、それを使って、児童学科の学生さんたちが実習時の本の読み聞かせ練習や、紙芝居の練習をすることもできます。「静かにしているだけが勉強じゃない!」そんなコンセプトを元に作られたこのグループ閲覧室をどうぞご利用ください。授業や会議で使用されていなければどなたでも自由に利用できます。ただ、友達と語り合いながら過ごせる部屋ではありますが、飲食は禁止!!それから音楽を流したりすることも、他の利用者の迷惑になります。一つのグループが専有することなく、譲り合い、上手に利用しましょう。それから4階には、スペースが有効に使え、たくさんの本を保管することのできる移動式書架があります。ハンドルで操作しますので、挟まれないようにご注意ください。移動式書架に置かれている本は、雑誌のバックナンバー、日本語で書かれた本の比較的古いもの、外国語で書かれた本です。韓国語で書かれた日本の小説なども置いてあります。興味のある方は是非どうぞ!!

児童学科のみなさんに朗報!!

紙芝居の舞台と拍子木を用意しました! 館内貸出ができますので、実習の練習として使えば臨場感たっぷり!!

ご利用の際は1階カウンターまで。

2007年度図書館の主な動き

●図書館ホームページを改訂しました

2007年7月に生まれ変わりました。データベース一覧やカレンダー機能が充実 (P. 4 参照)。これからも少しずつ機能を追加していきます。

●書架のリフレッシュを行いました

2007年6月と11月に、先生方による書架の点検作業を実施。書架の古い資料を取り除き、新しい資料と入れ替えました。

●オリエンテーションが変わりました

図書館オリエンテーションにレポート編が登場。図書館を使ったレポート作成のための資料収集や調べ方などを紹介しています。

●延滞督促を強化しました

資料の返却が遅れている人への督促を強化しました。特に卒業年次生については卒業証書を渡せなくなる場合があります。資料の返却期限は守りましょう。

●司書講習・司書教諭講習を担当しました

夏に実施している司書講習・司書教諭講習を2007年度より図書館が担当しました。

図書館の設備

(2008年1月31日現在)

1. 面積

サービス・スペース (閲覧・視聴覚コーナー等)	888㎡
管理スペース (書庫・事務室)	1,186㎡ 書庫収容能力 224,000冊*
合計	2,074㎡

*1段(90cm)を25冊として

2. 閲覧室

閲覧座席数	315席	利用者用プリンタ	4台
利用者用端末	60台	複写機	2台
		マイクロリーダー	1台

3. 視聴覚機器

テレビデオ	7台	LD プレーヤー	2台
CD プレーヤー	1台	DVD プレーヤー	1台
カセットプレーヤー	12台	DVD・ビデオプレーヤー	7セット

4. コンピュータ (業務用)

システムサーバー	3台	事務用端末	14台
無停電装置付		プリンタ	3台
防犯カメラサーバー	1台	ハンディターミナル	3台

2007年図書館の統計

(2008年1月31日現在)

I 図書館の推移

	学生数	蔵書数	年間受入冊数	開館日数	貸出冊数	図書費
	人	冊	冊	日	千冊	千円
2007	2,875	273,877	8,148	235	17.9	32,267
2006	2,969	264,673	7,869	276	19.5	32,345
2005	2,968	254,921	6,878	232	18.4	29,700
2004	2,938	247,250	8,287	275	17.5	30,400
2003	2,929	242,368	6,220	275	17.6	30,344
2002	2,931	235,745	6,223	271	18.4	33,805
2001	2,825	228,254	7,948	275	21	34,745
2000	2,549	219,368	6,769	274	18	35,805
1995	2,137	163,506	13,438	271	21.5	39,700
1990	1,769	96,752	8,195	280	11.8	22,650
1985	1,005	51,000	5,043	284	10.1	12,399
1980	877	36,000	2,599	236	6.8	7,588
1975	763	22,000	4,265	183	3.5	3,754
1970	440	14,000	1,296	239	2.1	1,340
1968	256	10,000	2,838	[247]	[1.4]	[1380]
1967	125	7,000		[247]	[1.4]	[1380]

規程の変更に伴い、1999年以降は消耗品図書も含めた冊数とした。

II 蔵書冊数

	和書	洋書	合計
総記	8,364	1,405	9,769
哲学・宗教	20,381	15,850	36,231
歴史・地理	17,469	3,093	20,562
社会科学(含教育学・福祉)	73,677	17,976	91,653
自然科学(含医学)	11,602	1,355	12,957
工学(含家政学)	6,539	481	7,020
産業	4,815	450	5,265
芸術(含楽譜)	9,006	884	9,890
語学	11,312	2,890	14,202
文学	39,445	13,355	52,800
その他	8,641	4,887	13,528
合計	211,251	62,626	273,877

III その他の資料

和雑誌(紀要・寄贈含)	464	カセットテープ	1,236
洋雑誌(寄贈含)	113	ビデオ・LD・DVD	2,615
スライド	34	CD	970
マイクロ資料	15,322	CD-ROM	492

IV 館外貸出冊数(図書):分類別

(2007年4月1日～2008年1月31日)

学生・院生・履修生のみ

	和書	洋書	合計
総記	517	0	517
哲学・宗教	1,735	31	1,766
歴史・地理	1,171	16	1,187
社会科学(含教育学・福祉)	6,537	35	6,572
自然科学(含医学)	764	0	764
工学(含家政学)	426	1	427
産業	372	0	372
芸術(含楽譜)	870	30	900
語学	1,244	20	1,264
文学	2,982	43	3,025
その他	1,075	5	1,080
合計	17,693	181	17,874

V その他(他館との協力等)

(2007年4月1日～2008年1月31日)

資料借用	227(内、学・院生43)	視聴覚コーナー利用	1,489
資料貸出	40	館内ノートPC貸出	4,485
複写依頼	573(内、学・院生383)	文献検索	54
複写受付	422		
紹介状発行	11(内、学・院生6)		
紹介状受付	1		

VI 館外貸出冊数・学科・学年別

(2007年4月1日～2008年1月31日)

	図書合計	雑誌・紀要	CD-ROM	カセット	CD
院・政策2年	21	0	0	0	1
院・政策1年	253	6	0	0	0
院・ア2年	21	0	0	0	0
院・ア1年	59	3	0	0	1
院・ア後3年	268	4	0	0	0
院・ア後2年	213	0	0	0	3
院・ア後1年	86	3	0	0	0
院・福2年	161	4	3	0	0
院・福1年	266	35	0	0	0
院・科目等	42	9	0	0	0
院小計	1,390	64	3	0	5
政治経済4年	563	22	2	0	16
政治経済3年	908	9	2	0	2
政治経済2年	520	8	0	0	0
政治経済1年	454	10	1	0	7
コミュニティ4年	250	24	0	0	1
コミュニティ3年	384	2	1	0	3
コミュニティ2年	273	3	1	0	7
コミュニティ1年	261	13	0	2	7
欧米文化4年	702	27	1	0	8
欧米文化3年	789	7	5	1	16
欧米文化2年	524	8	1	0	24
欧米文化1年	316	13	0	2	4
日本文化4年	892	19	0	0	3
日本文化3年	1,370	9	0	1	8
日本文化2年	1,253	13	0	0	10
日本文化1年	872	16	0	0	9
児童4年	795	11	0	0	4
児童3年	1,614	12	1	0	4
児童2年	1,384	12	1	1	6
児童1年	752	20	0	0	30
人間福祉4年	476	10	5	0	0
人間福祉3年	675	6	4	0	2
人間福祉2年	236	0	0	0	0
人間福祉1年	204	7	0	0	14
科目等履修	17	4	0	0	0
大学小計	16,484	285	25	7	185
合計	17,874	349	28	7	190

発行・編集 聖学院大学総合図書館
〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号
電話 048-725-5461 FAX 048-780-1096
E-mail: lib@seigakuin-univ.ac.jp
URL: http://seiglib.seigakuin-univ.ac.jp/